

低所得者層の子育て支援は

Q低所得者層の子育て支援について、貧困と向き合っている子育て世代に対しどのような取組をしているのか。

A学校におきましては、要保護・要保護制度を活用し、子どもたちの教育に関しての経費の補助、教育補助を行っております。

内訳といたしましては、平成27年4月現在で要保護の児童・生徒は小中学校で約20名、要保護につきましては、約106名となっております。

いずれの児童・生徒も学校へ通学しております。

また、現在、50日以上学校に登校できない児童・生徒が40名程度おりますが、市ではスマイル教室を活用し、児童・生徒と向きあうよう取り組んでおります。

また、生活困窮家庭では、

要保護を活用しておりますが、義務教育終了後の進学が不利な状況であることを踏まえて、市では、「寺子屋かがやき」という学習支援事業を実施しており、市在住の教職員OBの方々のボランティアによる学習支援に取り組んでいるところです。

なお、この会場は現在石橋地区一か所となっておりますが今後、参加者を多く受け入れる上で会場を増やすなど工夫をしながら充実してまいります。



デマンドバスの運行状況は？

Qデマンドバスを利用しているのだが、乗降経路がわからず病院の予約時間に遅れてしまったことがある。また、運転手の対応が統一されておらず不愉快な思いをした。運行状況を示してほしい。

Aデマンドバスにつきましては、23年から始まり当初の利用者は1,460人、26年度現在は2,670人となっております。

運行については、朝7時から夕方5時の時間帯で1時間に1便で巡行しております。

現在、運行の予約時間に来ないなど苦情がでておりますが、運転手に確認した結果、利用者の8割が高齢者の方ということもあり、乗降の際の介添え等で時間を費やす場合がありますとのことです。

市では、乗降の際には丁寧な対応をすることが、市の方針でありますので運行時間枠での遅れが出ているのは現状です。デマンドバスとタクシーは異なるものですので、ご予約される際には、時間に

余裕を持って予約されますようお願いいたします。

また、運転手の対応ですが、ご利用していただく皆さまが快く利用していただくよう、委託している交通事業者に随時、指導を行ってまいります。併せて、現在、市では交通会議の中で、デマンドバスの運行形態の在り方、利用時間帯の延長などの意見等を踏まえつつ、見直しを含めて、今後より良いデマンド交通に向けて取り組めるよう、計画を策定し、新たな交通体系で皆さまに喜ばれるような体制を整えてまいります。



放射能の測定は継続しているの？

Q烏ヶ森調整池では、釣り等を楽しむ方がいる。市民の安全安心のため、調整池の放射能測定を継続してほしい。

A烏ヶ森調整池の放射能測定につきましては、継続して実施しております。

測定値につきましては、基準値以下でありました。また、調整池の土砂撤去の際に、放射能測定を実施いたしました。が、基準値以下でありましたので一般廃棄物で処分いたしました。

今後、市民の皆さまの安全安心に関するお知らせを周知してまいります。

